

## 新型コロナウイルス感染症流行下での地域における事業実施状況について

### 1 基本的な考え方及び実施状況について

#### (1) 集団で実施する事業

【集団健康教育、乳幼児健診、がん検診、イベント、協力者等との連絡会、等】

- ・集団実施の事業は、基本的には6月末まで延期又は中止
- ・再開にあたり、感染予防対策を講じた上で実施する

※乳幼児健診については、緊急事態宣言期間中（令和2年4月7日～5月25日）、4か月児健診としてBCG接種のみ実施。その他は延期とし、宣言解除後、6月16日以降受付時間分散、時間縮小形で再開。

※屋内で実施するイベント（食育のつどい、ヘルシーカムカム、市民健康づくり大会等）は、今年度の開催は中止。

#### (2) 個別で実施する事業

【個別健康相談、訪問指導、等】

<保健福祉センターでの個別相談>

- ・感染症予防対策や感染機会を減らすための減らすための工夫を行った上で実施する

<訪問指導>

- ・社会的必要性等を踏まえ、感染症予防対策等を講じた上で実施する
- ・地域保健推進員による直接訪問は中止しポスティングのみとする

#### (3) 各地域で行われている活動への支援

【育児サークル、運動自主グループ、高齢者サロン、等】

・健康教育、健康相談、活動への助言等の実施に際し、主催者とともに感染防止策を検討した上で地域での活動再開状況に応じて職員（委託を含む）を派遣。

### 2 感染症対策について

#### (1) 実施環境に関すること

- ア 換気
- イ 広い会場への変更
- ウ ソーシャルディスタンスを保つ
- エ アクリル板の設置
- オ 会場の消毒

- ・個別健康相談においては、消毒を実施したうえで次の相談者を入室させる
- ・使用した物品は消毒を行う

#### (2) 参加者・対象者に関すること

- ア 会場での検温
- イ 体調不良者の事前把握（同居者も含む）
- ・受付時や訪問家庭前に、対象者やその同居者に発熱や咳、くしゃみなどの呼吸器症状の有無を確認

- ウ 参加者への感染予防対策の声かけ
    - ・会場入り口へのアルコール消毒液の設置や手洗いなどにより手指衛生の徹底を図る
    - ・マスク着用の徹底
- ※2歳未満はマスクの着用なし、2歳以上は可能な限り持参したマスクを着用する

### (3) 従事者側の対策

- ア 体調の確認
- イ マスクの使用
- ウ フェイスシールド、エプロン、予防衣の着用（※事業内容に応じて使用）

### (4) 内容・手法の見直し

- ア 定員の調整等
  - ・削減、数回に分散して実施
  - ・予約制の導入
- イ 同行者（入場者）制限
- ウ 参加者の接触機会の低減
  - ・グループワークをなくす、もしくはグループワークの時間を短縮
  - ・ソーシャルディスタンスを取って行える内容を提供（幼児対象の遊びの教室）
- エ 時間短縮
- オ 集団から個別の対応に変更
- カ その他
  - ・音楽療法は、各講師に相談の上、実施の可否やプログラムの内容を検討する
  - ・調理実習に代えて調理方法を伝達する方法での普及啓発を行う

## 3 事業の実施例について

事業名	実施内容
1. 乳幼児健診	<p><b>【感染症対策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○健診会場への入場者制限（同伴者は1名まで）、密集・密接の軽減</li> <li>・受診する母子同士の接触をできるだけ短時間にするため、受診する親子の動線が重ならないように健診の流れを検討するなど</li> <li>○手指衛生の徹底</li> <li>○マスクの着用</li> <li>○検温および健康状態の確認</li> <li>○換気・消毒の徹底</li> <li>○健診時間の短縮</li> <li>・健診会場での滞在時間を短くするため、これまで実施していた健康教育は、資料配付に代え、個別の相談は後日に予約制で実施。</li> <li>○従事者の体調確認、マスク等の着用、手指衛生の徹底</li> </ul> <p><b>【受診率】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○緊急事態宣言解除後の7月から9月までの健診受診率</li> </ul>

	<p>1歳6か月児健診で平均 98.1% 3歳児健診で 97.4% } ◆昨年度とほぼ同等の受診率</p> <p>【再開後の様子について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て中の親子が外出できる場所がなくなり、健診会場で保健師等に話を聞いてもらいたいという母親が多く、健診時間が長くなっているという区もある。</li> </ul>
<p>2. タブレットを活用した 妊産婦相談</p>	<p>【事業の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症への感染を懸念し、妊娠、出産、子育てについての相談ができずに不安や悩みを抱える妊産婦について、タブレットを使用したオンラインによる相談対応や情報提供を行う。</li> </ul> <p>※現在、タブレットや通信回線等の準備中。</p>
<p>3. 食生活改善推進員 養成講座</p>	<p>【事業の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食を通じた地域の健康づくりのために活動する食生活改善推進員（愛称：ヘルスメイト）を養成するための講座。</li> <li>・生活習慣病予防や食育の推進などについて学ぶ。</li> </ul> <p>【日程、開催場所等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・9月～2月（全6回）、若葉保健福祉センター</li> </ul> <p>【参加者数】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・43人 ◆例年並み</li> </ul> <p>※市広報やフリーペーパー、食生活改善推進員からの紹介で周知</p> <p>【感染症対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自宅学習を含むカリキュラムとし、講義時間を短縮した。</li> <li>・同じ内容を午前午後と2回実施し、1回あたりの参加者数を削減。</li> <li>・実習は計量のみとし、調理は自宅学習とした。</li> <li>・グループワークの人数、時間を制限して実施。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストを隅々まで読む参加者が増えたと感じるが、自宅学習のフォローに人手と時間がかかる。</li> <li>・食生活改善推進員は、グループ活動も盛んなため、受講者同士の交流も養成講座のプログラムとして重要視してきたが、グループワークを控えたことでグループ活動の様子を把握することが難しい。</li> </ul>

#### 4 今後の方向性

感染症の流行状況に注視しながら感染症対策を行い、可能な手段で市民に必要な事業を継続し、市民の健康を守るための支援を続けていく。